



瞳の奥に見えるもの

二年 飯田有珂

あなたが飼っている動物の瞳を、十秒だけでも見つめてほしい。そうすれば、彼らの伝えたい気持ちや私たちが人間に訴えたいことがきつと分かるはずだ。

私には、大切な家族の一員であるロビンという名の犬がいる。出会いは、父の一目惚れでその日のうちに家族になった。お腹がすくとすぐなくし、散歩に行きたいと思うとそわそわするし、わがままだなと思った。でも、夜になると隣にトコトコやってきて寄り添ってお腹を出して寝たり、私が泣いていると心配そうに見つめてきたり、怒ると口がへの字になったりするロビンはまるで人間のようだ。私は、そんなロビンが愛おしくてたまらない。飼い始めた時、私はまだ幼稚園生で「命」というものの大切さはよく分かっていたいなかった。でも、たくさんの愛情を注ぎ、一緒に生活する中で「命」について考えることが多くなった。

つい最近、私は新聞で動物虐待事件が日本過去最多になっているという記事を目にした。例えば、生きのまま動物を捨てる「遺棄」えさを与えなかったり劣悪な環境で飼育したりする「虐待」殺したり傷つけたりする「殺傷」などである。私はこの記事を見て、こんなにも愛おしくて尊い動物の命を壊し傷つける人があるのだと思うと、胸が張り裂けそうになった。当たり前のことだけれど、動物には感情があるのだから無抵抗な立場の彼らにとって人間という大きな存在から裏切られることは、恐怖と絶望でしか無いと思う。

このような、不幸な動物を増やさないために飼う前に考えてほしい。彼らが寿命を全うする時まで責任を持ち、育てる覚悟があるか。動物を飼える生活環境が整っているか。動物を飼わないという選択も、時には彼らを救うことに繋がるのかもしれない。また、飼うのであれば、愛情を一杯に注ぎ、家族としてたくさんの思い出を一緒につくり、幸せに育ててあげてほしい。

知り合いのブリーダーさんがしてくれた話の中で、とても印象に残っている言葉がある。「顔を見れば、一瞬で大切に育てられているかが分かるんですよ。」という言葉だ。犬も人間とまったく同じで、幸せに育ててもらえると明るく、おおらかな表情になるのだという。だんだんと、ロビンの顔が私や父、母に似てきたようにも思う。

最後にもう一度、今あなたが飼っている動物の瞳を十秒だけ見つめてみてほしい。きつと忠実で純粋な視線をあなたに向けているはずだ。こんなにもあなたを信用して、大好きだと思っている彼らを裏切るようなことはしないでほしい。動物は、私たちの生活を豊かにしてくれて、寄り添ってくれる愛おしく尊い存在なのだから。